

必修化以降の中学校における現代的リズムのダンス授業の現状と処方箋 —楽しむ生徒と指導に困難を感じる教員への授業デザインと補助映像教材—

トップスポーツマネジメントコース

5017A318-7 土田 哲也

研究指導員 平田 竹男 教授

1. 研究の背景

2008 年学習指導要領改訂より中学校の保健体育でダンスが必修化され、2017 年改訂でも継続している。創作ダンス、フォークダンスと「現代的リズムのダンス」を選択する形で男女とも必修となった。こうした中 2012 年に日本で初めて NHK が現代的リズムのダンスの教育番組（E テレ E ダンスアカデミー）を開始し、筆者は EXILE（ボーカル&パフォーマンスグループ）での経験から EXILE ÜSA と共に番組開始以来継続して講師として子供達にダンスを教えている。番組への投稿に、中学生からは、踊ることが楽しい、もっと上達したいなどの声があったが、その一方で教育現場で困っている教員から、ダンスの教え方や生徒の関心の差の解決方法等への質問があった。

学習指導要領においては、「現代的リズムに合わせて全身で自由に踊る」とあるのみで、初心者にとっての基本的な動作についての具体的な記述はない。市販のテキストでは、アップ、ダウンやアイソレーションについては、ほぼ冒頭で動き方の基本を示している。また、基本ステップは掲載数にばらつきはあるが、ランニングマンやクラブステップを含み、写真や文章とともに DVD で解説されている。現代的リズムのダンス教育に関する研究でも、ダンス初心者が即興的パフォーマンスの成果を上げるには、自由な運動学習よりもステップを習得学習してからが、またその上で交流学习へ進む方がより有効である（高田 2015）等の研究があるが、中学校の教育現場における現代的リズムのダンス教育の現状と問題点、さらにその解決策についての具体的な方法に言及した研究は見当たらない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近年の学習指導要領改訂で導入された中学校の現代的リズムのダンスの授業について、実際の授業内容や中学生の満足度、指導する上での教員の困難感等を明らかにすると共に、教員と中学生双方の立場からその解決策を提示することである。

3. 研究方法

教員（協力の得られた 9 つの都道府県に勤務する中学校の保健体育の教員）、中学生（協力の得られた中学校

3 年生）、中学で現代的リズムのダンスの授業を受けたダンス経験者（ダンススクール EXPG（12 校）でレッスンを受けている高校 1 年生から 2017 年 3 月に高校を卒業した人）を対象に、質問紙調査を実施した。また、NHK のダンス教育番組で用いるレッスン音源や市販教材の音源速度を調査した。

調査項目は、教員：指導現場で困った経験、使用している市販のテキストや映像などの使用の有無、基本動作やステップなど基礎的な知識の有無等。中学生：現代的リズムのダンスの選択経験や授業の内容、映像の使用の有無、基本動作、ステップを習ったことがあるか等。ダンス経験者：現代的リズムのダンスの選択経験や、先生の代わりに自分がダンスの先生役、指導係になったことがあるか等である。

調査用紙は 2017 年 10 月上旬に配布した。分析は 11 月上旬までに返送されたものを分析対象とした。分析は単純集計により教育現場の全体像を把握し、その後性別や授業の満足度等を比較には χ^2 乗検定を、自信や困難感に影響する因子の特定するためにロジスティック回帰分析を用いた。統計ソフトは JMP Vol. 13 を用いた。

4. 研究結果

回答者の概要と現代的リズムのダンスの実施状況を表 1 に示す。以下に対象ごとに特徴的な結果を述べる。

1) 教員アンケートの結果

73%は現代的リズムのダンスの指導経験があり、全員が授業に困難を感じていた。52.6%がダンスを習っている生徒に指導を委ねていた。指導に困難を感じる主な理由は「自分のスキル、知識がないもしくは少ない」（80%）、「評価方法が難しい」（66.7%）、「生徒の関心意欲の差が大きい」（56.7%）「自分が踊れない」（53.3%）、「基礎を教えられない」（51.7%）「選曲方法が難しい」（38.3%）であった。そして授業に自信が無いと答えたのは、23 人 33.3%、やや自信が無い 10 人 14.5%で、教員の自身の無さと困難感を解析した結果、自信が無いと感じる主な原因は、「自分が踊れない」「基礎を教えられない」「学習指導要領が曖昧」の三項目が有意な要因として抽出された。（ $p < 0.001$ ）

基本ステップの認識率は、ダウンは 90.0%、アップ

は 88.3%、ランニングマンは 93.3%、アイソレーションは 34.5%、クラブステップは 48.3%で、基本ステップを授業に取り入れている人は 79.3%だった。

回答者の 93.1%は、基本ステップや振付、型の解析映像は有効だと答えていた。授業組み立てのヒントとして何らかの映像を参考にしており、市販 DVD やアーティストの映像が役立っていた。

表 1 アンケート結果の概要

		人 (%)		
性別	教員	中学生	ダンス経験者	
			人	(%)
男	53 (76.6)	801 (53.7)	276	(26.4)
女	16 (23.2)	692 (46.3)	768	(73.6)
中学校ダンスの選択状況				
創作ダンス	14 (20.3)	620 (42.1)	498	(47.5)
フォークダンス	5 (7.2)	346 (23.5)	232	(22.1)
現代的リズムのダンス	50 (72.5)	1011 (68.6)	706	(67.4)
授業で教える人				
体育教員	32 (56.1)	841 (45.2)	650	(82.2)
外部ダンサー	25 (43.9)	539 (29.0)	38	(4.8)
習っている生徒	30 (52.6)	478 (25.7)	76	(9.6)
その他	0 (0.0)	3 (0.2)	18	(2.3)
授業のスタイル				
市販テキストを使用	26 (43.3)	93 (10.1)	126	(16.2)
映像を使用	45 (78.9)	649 (62.8)	419	(53.2)
グループワーク	45 (78.9)	-	679	(86.3)
発表会	-	899 (80.9)	-	-
Eテレ「Eダンスアカデミー」を参考にした	21 (36.2)	116 (10.4)	65	(8.0)
基本ステップの実施	46 (79.3)	577 (51.6)	180	(22.7)
設備				
鏡がある	24 (40.0)	217 (13.4)	-	-
音響設備がある	55 (91.7)	745 (46.1)	-	-
映像機器がある	53 (88.3)	653 (40.4)	-	-

2) 中学生アンケートの結果

中学生の 68.6%が現代的リズムのダンスを選択しており、授業時間は 1、2 年生は必修、3 年生は選択で保健体育年間 105 時間のうち 7～8 時間行っている。

授業は 75.6%が楽しい、55.2%が仲間とのコミュニケーションが増えたと感じ、56.5%は基本ステップを授業で取り入れるべきだと答え、62.8%が映像を使用した授業を受け、10.4%が E テレの番組を参考にした。

基本ステップの認識率は、ダウン、アップともに 51.9%、アイソレーションは 10.3%、ランニングマンは 87.1%、クラブステップは 21.4%で、基本ステップを中学校授業で指導を受けた人は 51.6%であった。

「発表の場があった」「基本ステップの指導を受けた」「アーティストの映像を使った」「DVD を使った」経験が、授業が楽しいと感じる要因であった ($p < 0.001$)。

また授業を受ける施設に「鏡がある」は 13.4%、「音響設備や映像機器がある」も半数以下であった。

3) ダンス経験者のアンケート結果

回答者の 46.2%が先生に代わって指導し、振付や基本ステップを教えていた。レベルが高いクラスにいる生徒ほど、先生に代わって指導していた。

5. 考察

1) 生徒の楽しさ

現代的リズムのダンスの授業は、教員全員が困難を感じ、必ずしも円滑な授業が行われている状況ではない。しかし、中学生は楽しい、仲間とのコミュニケーションが増えたなど、前向きに受け止めていた。

生徒は「基本ステップの指導」があり、「映像」が用いられる授業で、「発表の場」に楽しいと感じている。これらを踏まえた授業デザインは、さらに生徒が楽しいと感じる授業に発展すると示唆される。

2) 教員の困難感

困難感の理由上位 5 つのうち 3 つは自分が、現代的リズムのダンスが踊れないことが原因となっている。教員が自主練習出来る様な映像教材の提供は、教員の困難感の軽減に貢献するとともに、その映像自体が授業で役立つ可能性があるとして示唆される。

3) 授業デザインと映像教材に盛り込むべき内容

各学年 1 年間 7～8 時間で基本ステップの習得、振付、発表の場という流れを想定し、8 回の授業に割り振ると中学校 1 年生には表 2 のような授業デザインになる。そのための 4 回分の映像教材として①アップ、ダウン、アイソレーション、基本ステップ、②選曲の提案 (90～110bpm 程度の速さの曲)、③約 90～120 秒 (イントロから 1 番のサビ終わりまで) 踊るための①の組み合わせ方 (振付を想定) とチームでの揃え方を内容に盛り込む必要がある。2 年生以上には同様の構成でそれぞれをレベルアップさせたものを用意する。

また評価方法については、技術面は上記①③の各項目の評価基準を教員に言葉で分かりやすく提示するため今後開発が求められる。

表 2 1 年生の現代的リズムのダンスの授業デザイン

	1	2	3	4	5	6	7	8
アップ	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
ダウン	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
アイソレーション	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
ランニングマン		✓	✓			✓	✓	
クラブステップ				✓	✓	✓	✓	
選曲						✓	✓	
振付構成						✓	✓	
発表の場								✓
映像教材 1								
映像教材 2								
映像教材 3								
映像教材 4								

6. 結論

現代的リズムのダンスの授業を中学生は楽しい、仲間とのコミュニケーションが増えたなど、前向きに受け止めており、「生きる力を育む」を掲げた 2008 年の学習指導要領改訂から現代的リズムのダンスを必修とした狙いはほぼ達成されているが、現場の教員は困難感を訴えている。各学年 1 年間 7～8 時間で基本ステップの習得、選曲、振付、発表の場という流れを想定した映像教材が教員の困難感の軽減の一助となると示唆される。